

ロハスパッカーズ通信

定期報告 10 月 1 回目―幻の鳥ケツァールを求めて―

文責：有村拓朗



地球上すべての生物種の実に 5%が生息すると言われる生物多様性の宝庫、コスタリカ。ここで僕たちは幻の鳥、ケツァールを探しにレンタカーを借り、首都サンホセからサンイシドロに行くまでの道中の穴場スポットを目指しました。ケツァールは「全長は 35cm 程度だがオスは長い飾り羽をもち、これを含めると全長は 90~120cm にもなる。頭から背にかけて金属光沢のある濃緑色をしており、腹部が鮮やかな赤色である。」と、ウィキペディアの言葉を見るだけでも美しい想像を駆り立ててくれる鳥です。

早朝 6 時に眠気眼をこすりながら、「ケツァールは早朝に見れる可能性が高い。」という地元の人たちの話を信じ、一路「見れるかもしれない」といわれるそのスポットを目指しました。

3 時間をかけて着いた森林の中は、鳥の鳴き声、風の音、葉と葉の優しくこすれる音がはっきりと聞こえ、映画「もののけ姫」にでてくるような神秘的な息遣いが、静かにきこえてきました。

運よく地元の人が他の欧米人 2 人を連れてその場所に来ており、ケツァールの好物であるアボカドのなる木とその見分けかたを教えてくださいました。

そっと。静かに。目を凝らして。

深緑の緑の色の違いがはっきりと目で確認できると、次第とそれまで見えてこなかった景色が見えてきました。そして、その中でかすかに動いている鳥を発見。

ケツァールだ。



鮮やかな葉っぱの間、苔が生ず木の上に、美しい濃緑色の羽を纏ったケツァールが完璧なポーズでこちらを振り向いていました。手塚治虫の火の鳥のモチーフになった、この鳥の最大の特徴である長い尾羽は、生え変わりの季節のため見ることはできませんでしたが、それでも魅入られたように「シャッター音でケツァールが逃げてしまいませんように」、と願いながら、幾度もシャッターを切り続けました。今回の写真はその中の一枚です。

森と溶け込むイメージで佇み続けた3時間は、あっという間の出来事で、一日でバードウォッチングの醍醐味と楽しさに開眼した気がしました。(道中の動画も作成しましたので併せてご覧ください。

URL: <http://www.youtube.com/watch?v=xfhEuZktKhw&feature=related>)

